

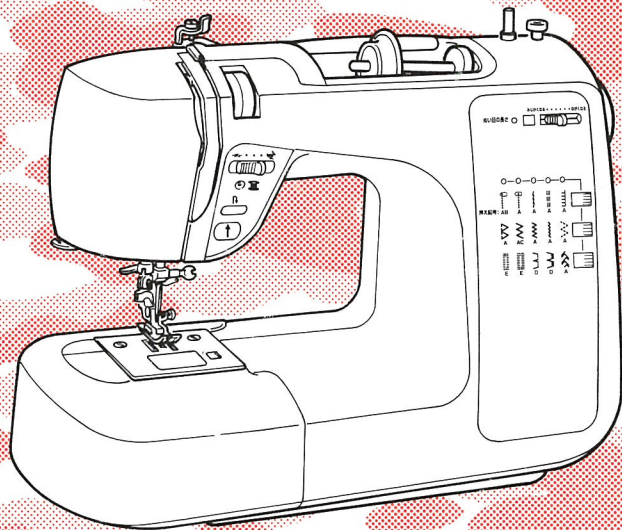
# JUKI

COMPUTER SEWING MACHINE

Atteirer **e** 30

アティレ  
HZL-E30

## 取扱説明書



**!** 注意

安全にご使用していただくため、  
ご使用前に必ずこの取扱説明書  
をお読みください。また、いつでも  
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げいただきましてありがとうございます。


このコンピューターミシンの特長をご理解していただき、正しく安全にご使用していただくためにどうぞこの「取扱説明書」をよくご覧ください。なお、このミシンは選びぬかれた純正部品を使い、十分に品質管理された製品ですので多彩なソーイングをお楽しみください。

## 安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。このミシンは日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



この表示は  
禁止マークです。

<p><b>警告</b> このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。</p> <p>1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。</p> <p>2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 ●ミシンのそばを離れるとき。 ●ミシンをご使用になったあと。 ●ミシンのご使用中に停電したとき。</p> 	<p>3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。</p> <p>4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（フーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。</p> <p>5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。</p> <p>6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。</p> <p>7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全にご注意ください。</p>	<p>8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ●針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。 ●下糸、上糸をセットするとき。 ●ランプを交換するとき。（ランプが冷えてから行ってください） ●取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。</p> <p>9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。</p> <p>10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。 ●正常に作動しないとき。 ●落下などにより破損したとき。 ●水に濡れたとき。 ●電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。 ●異常な臭い、音がするとき。</p>
<p><b>注意</b> このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。</p> <p>1. コントローラーの上に物をのせないでください。（コントローラーは別売品です）</p> <p>2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。</p>		

## その他のご注意

<p>長時間のゆっくりぬいを続けると異常発熱を防ぐため、ミシンが止まるようになっています。</p>  <p>約 20 分で安全装置が復帰して正常にご使用できます。</p>	<p>直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。</p> 	<p>シンナーなどの溶剤でふかないでください。</p>  <p>柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。</p>
--	---	--

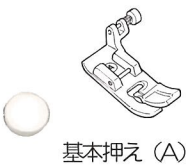
# もくじ

安全にご使用していただくために	1	伸縮強化ぬい (ストレッチステッチ)	11
付属品	2	ボタン穴かがり	12
各部のなまえ	3	芯入りボタン穴かがり	13
主なはたらき	4	ファスナーつけ	13
下糸を巻くには	5	脇あきファスナーつけ	
内かまにボビンを入れるには		つき合わせファスナーつけ	
上糸のかけ方	6	まつりぬい (ブラインドステッチ)	14
針自動糸通し		パッチワーク	14
下糸の引きあげ方		別売品のご紹介	15-17
押えのとしかえ方	7	コンシール押え、手動BH押え、三ツ巻き押え、 上送りアタッチメント、キルトアタッチメント、 テフロン押え、コントローラー	
押えと各模様の関係	7	仕様表	17
布地・糸・針の関係	7	針の交換	18
ぬい目の長さを変えるには (手動)	8	ランプの交換	18
糸調子の合わせ方	8	お手入れ (掃除)	18
直線ぬい	9, 10	故障かな・というときは	裏表紙
伸縮地の直線ぬいには		アフターサービスと保証	裏表紙
上めぬい、厚地のぬい始め			
フグザグぬい	11		
裁ち目かがり	11		



ミシンのケースに取扱説明書を入れることができます。

## ■ 付属品



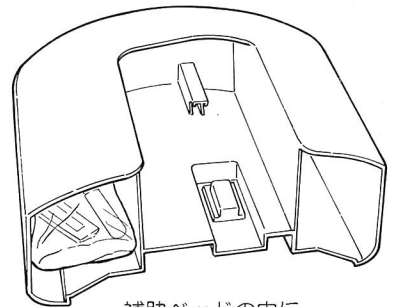
基本押え (A)



ボタン穴かがり押え (E)



裁ち目かがり押え (C)



補助ベッドの中に付属品が入っています。



ブラインドステッチ押え (D)



ファスナー押え (B)



ボビン (3ヶ)



専用ドライバー



リッパー (糸ほどき)



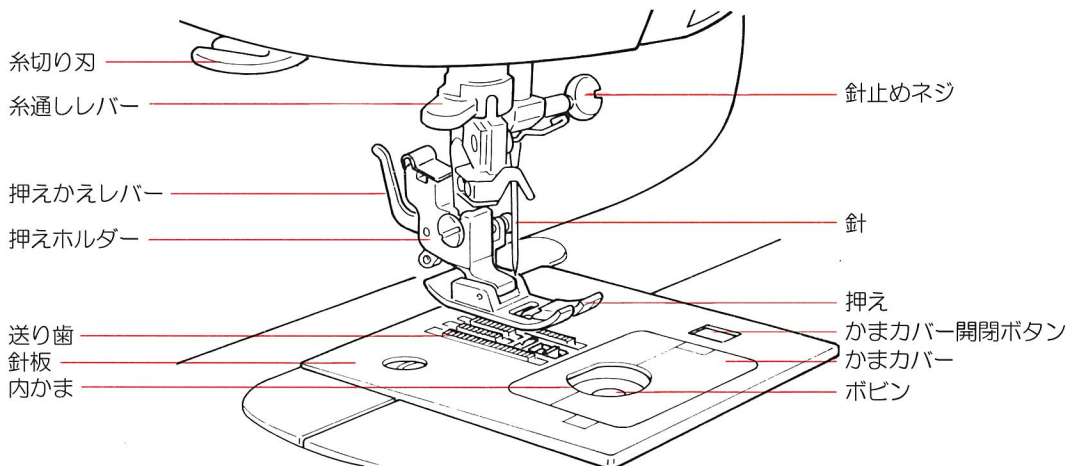
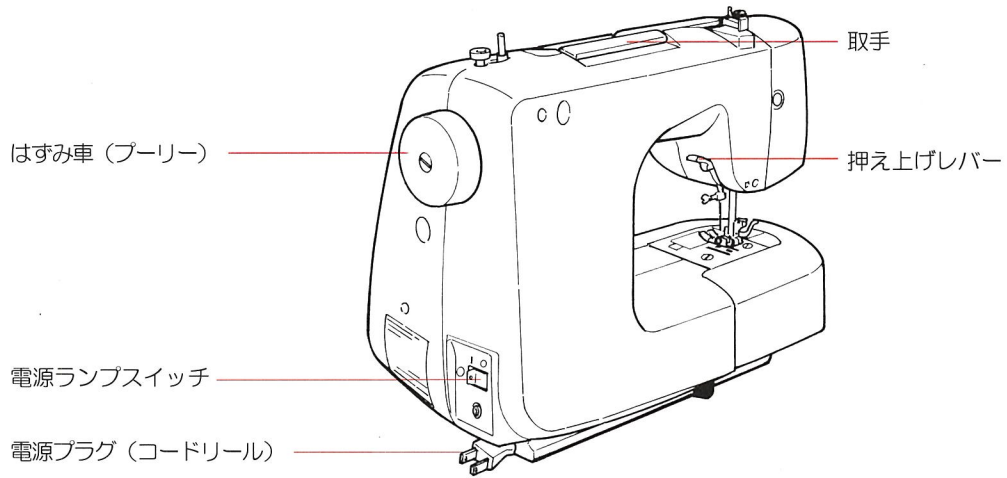
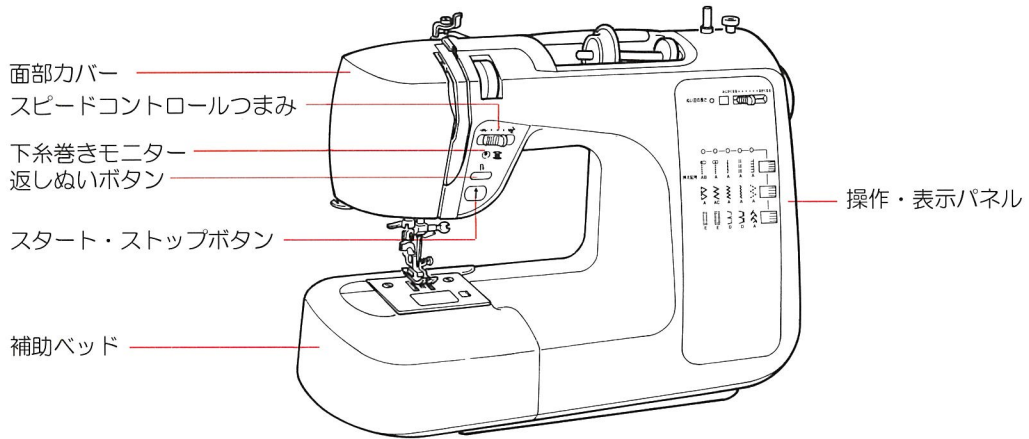
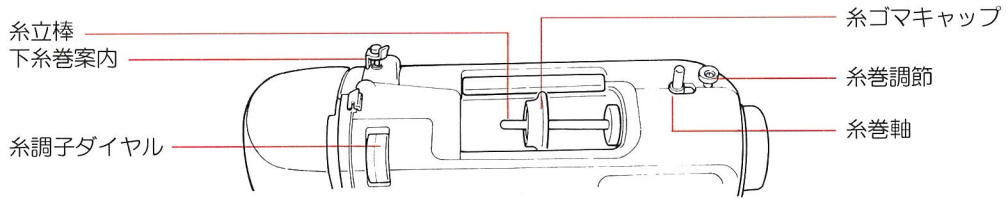
糸ゴマキャップ (小)



針HA×1  
11番 2本  
14番 1本

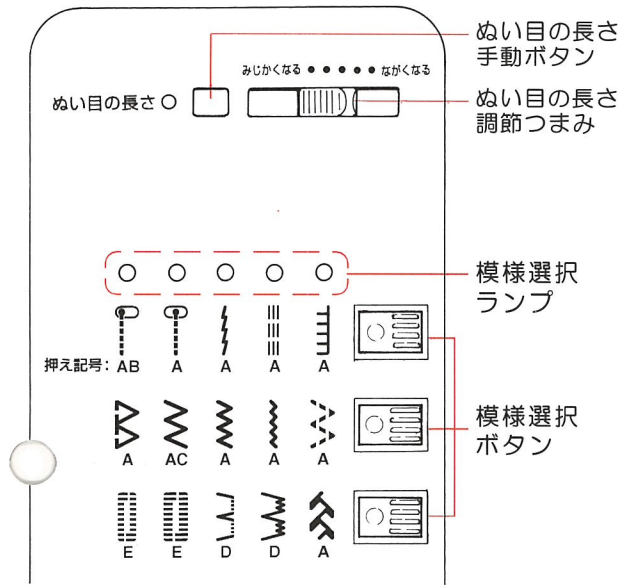
※基本押え (A) は最初ミシン本体にとりつけられています。

■各部のなまえ



# ■主なはたらき

模様の種類と操作 (操作・表示パネル)



\*電源を入れると、自動的に直線 (左基線) が選ばれます。  
 \*模様選択ボタンを1回押すごとに、模様選択ランプが右側に移動し、選択模様を切り変えます。

例) を選ぶとき  
 → 1番下の模様選択ボタンを3回押します。

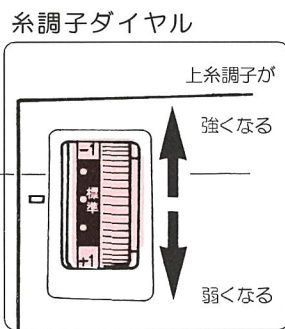
このミシンは伸縮素材 (ニット、ジャージ生地など) に適したぬい目 (模様) を備えています。

伸縮地用模様

直線伸縮ぬい	伸縮強化ぬい	三点ジグザグ	まったりぬい

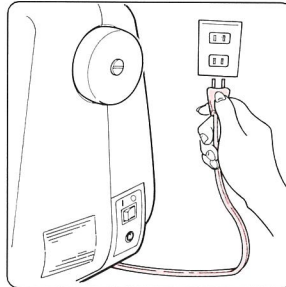


糸巻軸が下糸巻き状態のときに点灯します。  
 モニターが点灯しているときは針、はずみ車は動きません。



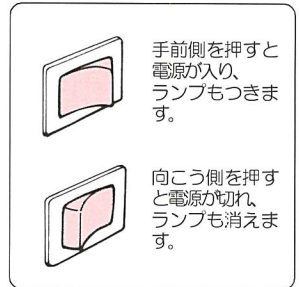
上糸調子を調整します。

## 電源・コードリール

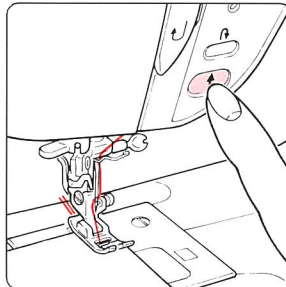


コードを引き出します。  
 コードを少し引いてゆるめずと巻きこみます。

## 電源ランプスイッチ

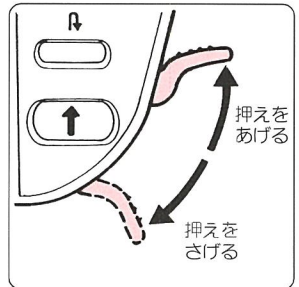


## スタート・ストップボタン



ミシンをスタートさせます。再度押すとストップします。針は下の位置で止まります。

## 押え上げレバー



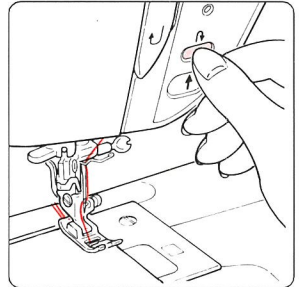
上にあげると押えがあがります。下へさげると押えはさがります。

## ぬい速度調節つまみ



ぬい速度を調節します。

## 返しぬいボタン



ぬい始め、ぬい終りに返しぬいをするとぬい目がほつれません。ぬい終りに押しと、針は上の位置で止まります。

## ぬい目の長さの調節

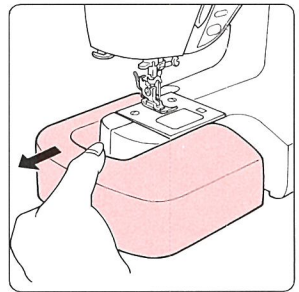
- ・ぬい目の長さは選んだ模様合った長さに自動的に決まります。
- ・調節できる模様は8ページを参照してください。

手動ボタン 調節つまみ

ぬい目の長さ 〇 みじくなる ● ● ● ● ● ● ● ● ながくなる

各模様のぬい目の長さを変えるには：手動ボタンを押して (ランプがつきます) から、お好みの位置に合わせます。

## フリーアーム

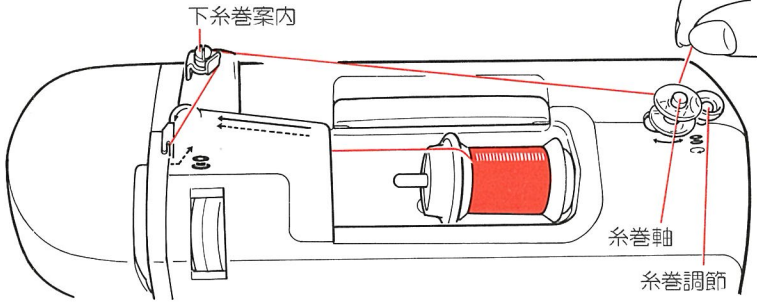


補助ベッドを左へ引きますとフリーアームになります。

## ■下糸を巻くには

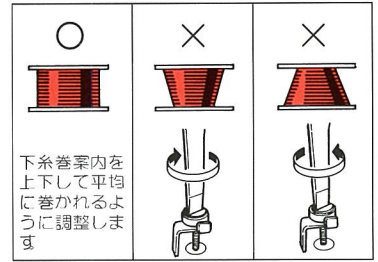
※下糸巻状態で電源を入ると、ピピッと音が鳴ります。

### ●下糸巻きの糸のかけかた

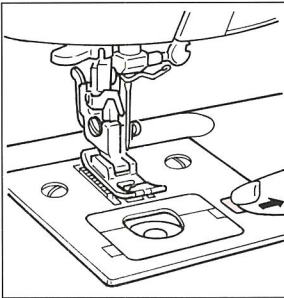


### ●下糸巻きの調節

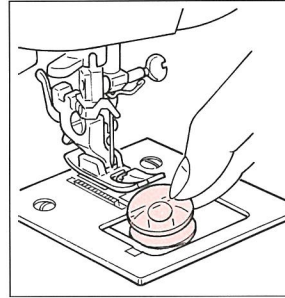
糸によって、下糸が片寄って巻ける場合に調節します。



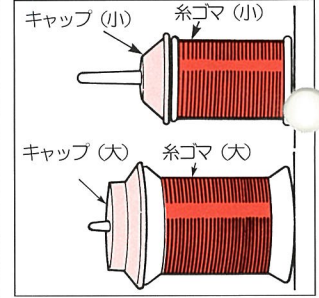
## 1 かまカバーを開けます。



## 2 ボビンをとり出します。



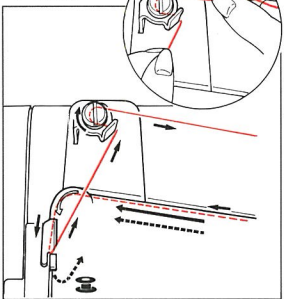
## 3 糸ゴマをセットします。



糸ゴマの外周に応じてキャップをかえてとりつけます。

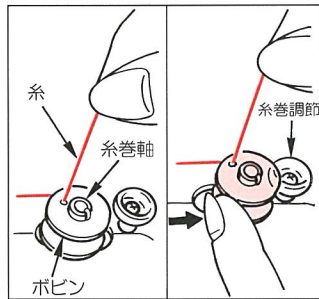
**▲注意** かまカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

## 4 下糸巻案内に入れ



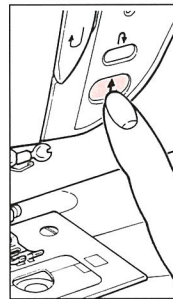
糸は右回りに、両手で下糸巻案内にかけます。

## 5 ボビンを糸巻軸に



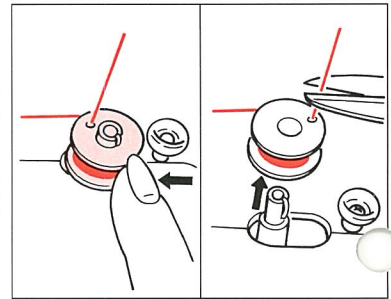
ボビンを糸巻調節へ押しつけます。(下糸巻きモニターが点灯します)

## 6 スタート



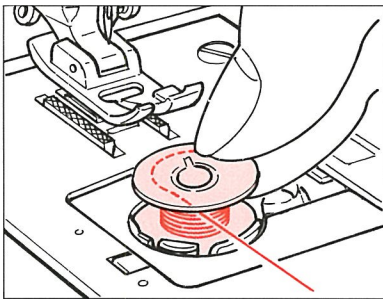
下糸巻きモニターは点滅します。巻き終わったら再度スタート・ストップボタンを押します。

## 7 ボビンを左側に戻します。



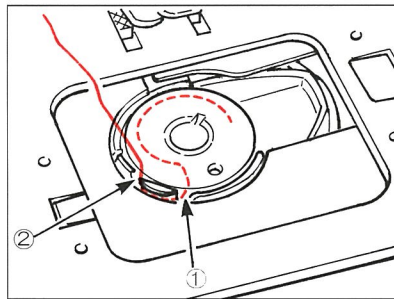
余分な糸を切り取りボビンを取り出します。

## 8 内かまに入れます。



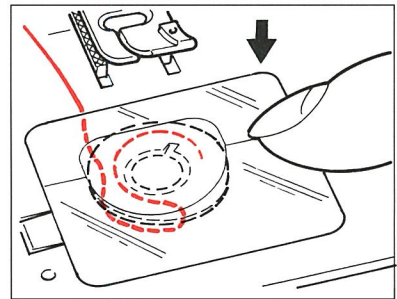
ボビンの糸巻き方向を左巻きに!

## 9 内かまに糸をかけます。



①に糸をかけ②のミソの上ののせ後ろへもって行きます。

## 10 かまカバーを閉じます。

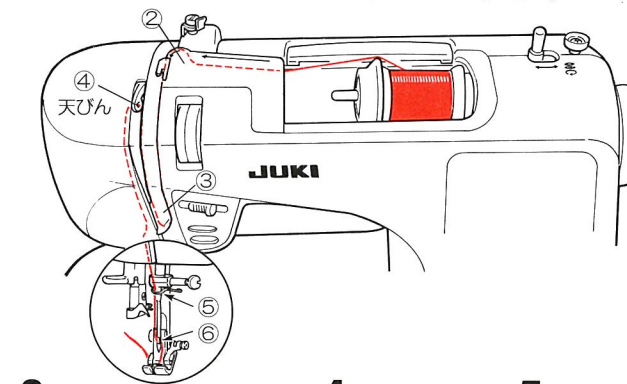
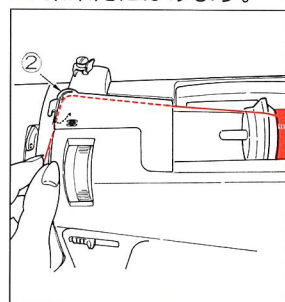
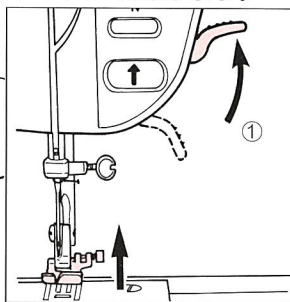


## ■上糸のかけ方

※必ず押えを上げてから糸をかけてください。

**1** 最初に押え上げレバーをあげます。

**2** 糸案内にかけます。

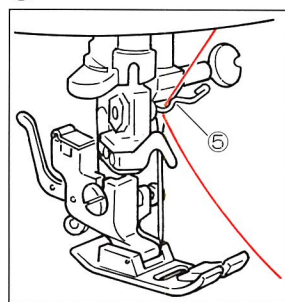
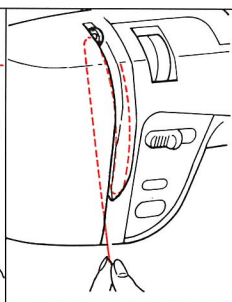
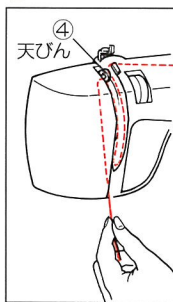
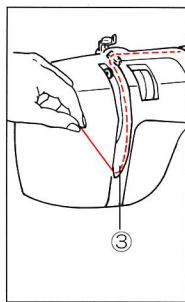
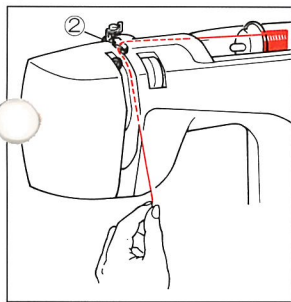


**3**

**4**

**5**

**6**



ミゾに入れて下にもって行きます。

③から上にもって行きます。

④の天びんに糸をかけて下にもって行きます。

⑤は右側からかけます。

### 針自動糸通し

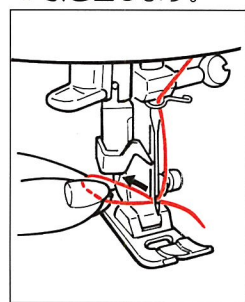
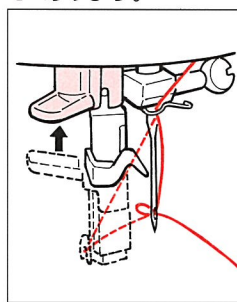
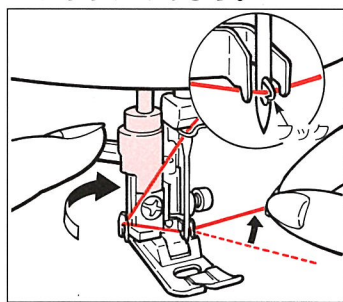
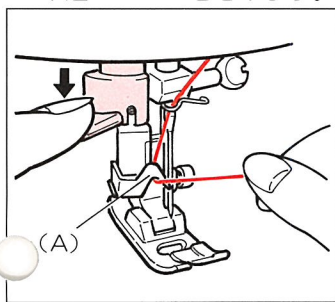
※針が最上点あることを確認してください。

**1** 押えをさげ糸通しレバーをさげます。

**2** フックにかけます。

**3** 糸通しレバーをあげます。

**4** 糸を引き出します。



針を上にあげてから糸通しレバーをさげて (A) に糸をかけます。

糸通しレバーをいっぱいまで下げてから矢印の方向に止まるまで回転させ糸をフックの下へ持って行きます。

糸通しレバーを戻すと、糸は針穴に通ります。

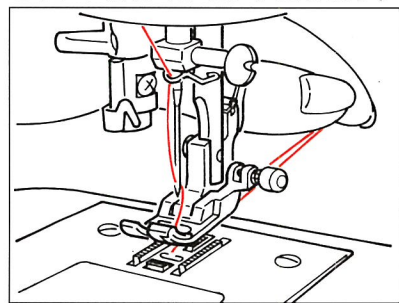
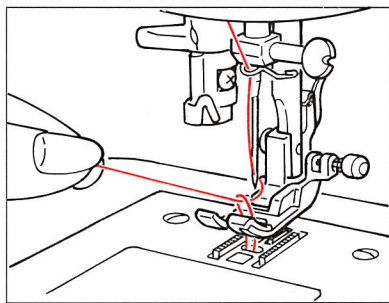
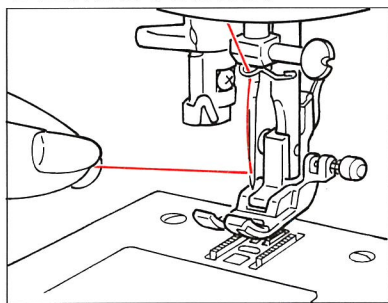
通した糸を針穴から10センチくらい引き出します。

### 下糸の引きあげ方

**1** 上糸を軽くもちます。

**2** はずみ車を手前に回します。

**3** 上・下糸を10センチ出します。



針が上下して下糸を引き出します。

上・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

押えのとりかえ方

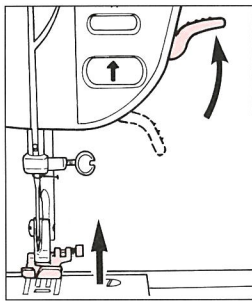
■押えのとりかえ方



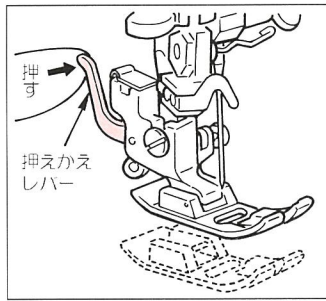
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをあげます。

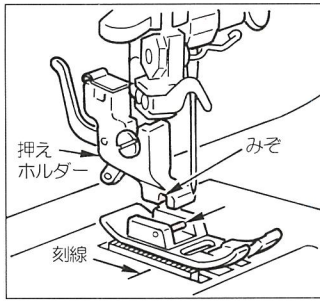


2 押えをはずします。

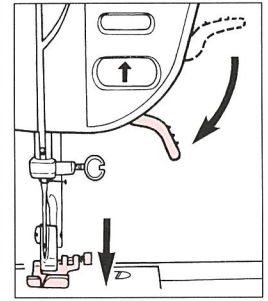


押えかえレバーを矢印の方向に押しします。

3 押えのピンと刻線を合わせます。



4 押えを下げます。



押え上げレバーを下げると押えはセットされます。

押えと各模様

■押えと各模様



注意

押えをまちがえますと針がぶつかり、折れたり、曲ったりしますのでご注意ください。

押えと記号	基本押え										ファスナー押え	裁ち目かがり押え	ブラインドステッチ押え	ボタン穴かがり押え				
	押え記号 A										記号 B	記号 C	記号 D	記号 E				
模様											左基線使用							
主な用途	左基線 直線ぬい	中基線 直線伸縮ぬい	直線伸縮ぬい	伸縮強化ぬい	アップリケ	大 シグザグぬい	中 シグザグぬい	小 シグザグぬい	裁ち目かがり	三点シグザグ	ファスナーつけ	大 裁ち目かがり (オパール)	まつりぬい	伸縮地用 まつりぬい	まつりぬい	ボタン穴 かがり		

布地・糸・針

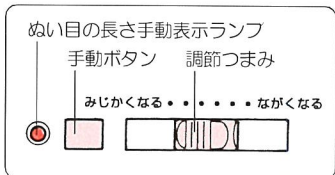
■布地・糸・針

	布地	ミシン糸	針
薄地ぬい	ローン	絹ミシン糸 80~100番	9番
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸 90・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸 60~100番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 80番 化繊ミシン糸 60~100番	11番
普通地ぬい	普通木綿・化繊布	綿糸 50~80番 化繊ミシン糸 50~60番	11~14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊服地		11~14番
厚地ぬい	デニム	綿糸 30~50番 化繊ミシン糸 30~50番	14~16番
	ジャージー	絹ミシン糸 50番 化繊ミシン糸 50~60番	ニット針 11番
	コート地	絹ミシン糸 50番	11~14番

※ニット針 (HA×1sp) は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。



## ■ぬい目の長さを変えるには・・・



- 電源を入れなおしたり、模様を選びなおすと、ぬい目の長さは自動的に適正なぬい目の長さがセットされます。
- お好みのぬい目の長さにしたいときは手動ボタンを押して（ランプがつきます）調節します。（手動の解除は模様を選びなおすか、再度、手動ボタンを押します。）

模様							
ぬい目の長さ	自動	2.4		2.6	2.4	2.0	1.4
	手動の範囲	0~4	1.2~4	一定	1.2~2.6	0~4	

模様								
ぬい目の長さ	自動	1.0	1.2	0.4		2.0	1.8	2.4
	手動の範囲	0~4		0.2~1.0		0.4~4		1.2~2.6

### 直線ぬいの自動、手動のぬい目の長さの例

#### 自動

自動の場合：調節つまみの位置に関係なく適正なぬい目の長さが設定されます。

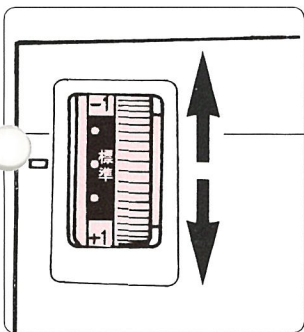
#### 手動のとき

●調節つまみを動かすとヒッと鳴りますので、お好みの位置に合わせます。

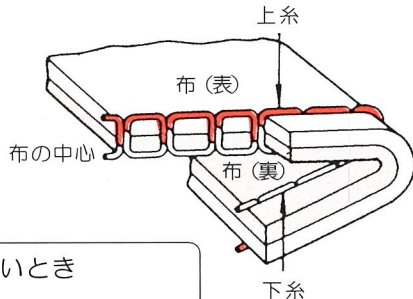
●手動のときでも自動の位置になりますと手動表示ランプが点滅します。

## ■糸調子の合わせ方

●標準の位置を目安に、布地に合った糸調子に調整します。



通常の糸調子は上糸と下糸のからんでいるところが布の中心です。



× 上糸の調子が弱いとき

糸調子ダイヤル目盛の数字を大きくします。

× 上糸の調子が強いとき

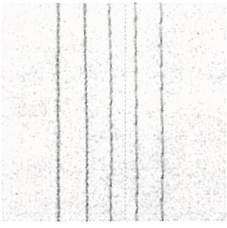
糸調子ダイヤル目盛の数字を小さくします。

## ■直線ぬい

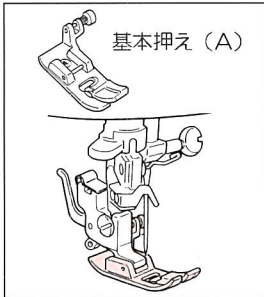


注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

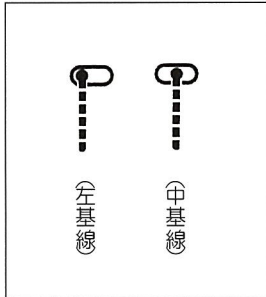
直線ぬいは、ぬいの基本です。  
布地に適した針と糸を選びましょう。

## 1 押えを確かめます。



基本押え (A)

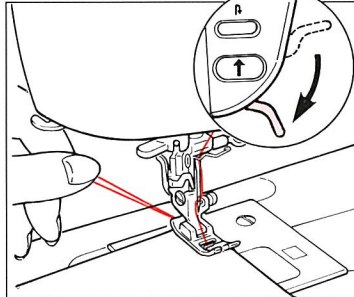
## 2 直線もようを選びます。



左基線

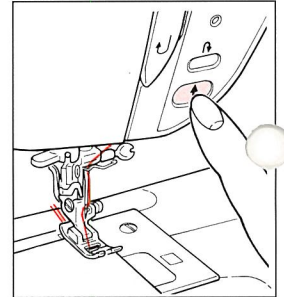
中基線

## 3 布地を入れ、押えをさげます。

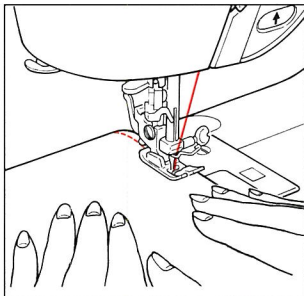


布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

## 4 スタートさせます。

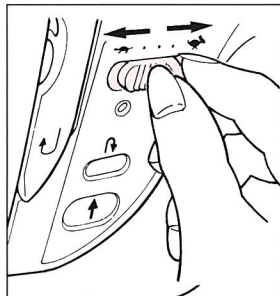


## 5 布地に軽く手をそえます。



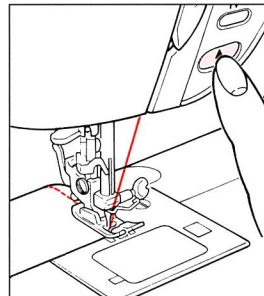
ぬっている間は布地をムリに引っぱらないようにします。

## 6 ぬい速度を調節します。



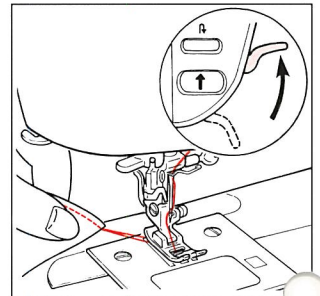
右にするとはやくなります。左にするとおそくなります。

## 7 ストップさせます。



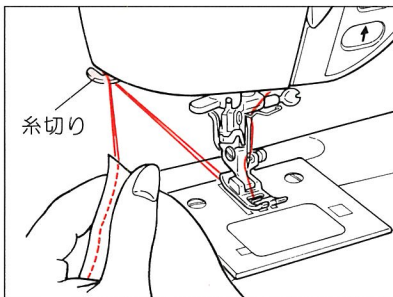
スタート・ストップボタンを押します。針は下で止まります。返しぬいボタンを押すと針が上がります。

## 8 押えをあげて布地を取り出します。



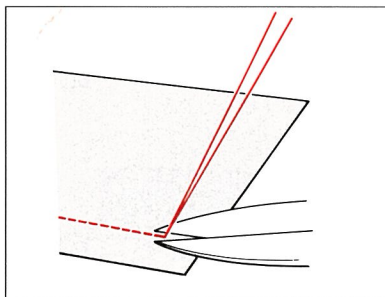
針が完全に止まってから、押え上げレバーをあげます。

## 9 糸を切ります。



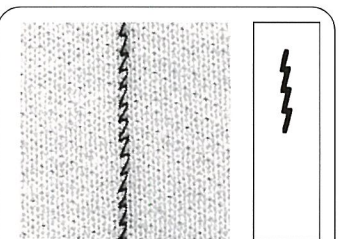
上・下糸をそろえて10センチくらい引き出し、面部カバーについている「糸切り」で糸を切ります。

## 10 布地の裏で糸を結びます。



布地の裏に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

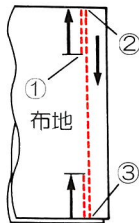
伸縮地の直線ぬいには！



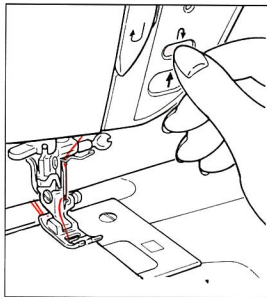
ぬい目が伸縮しますのでニット、ジャージー地などの直線ぬいとして使用できません。

## ●止めぬい（返しぬい）

※返しぬいボタンは  
押している間だけ  
返しぬいができます。  
※返しぬいはゆっくり  
な速度になっています。

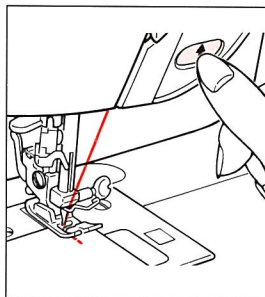


①返しぬいボタンを押  
します。

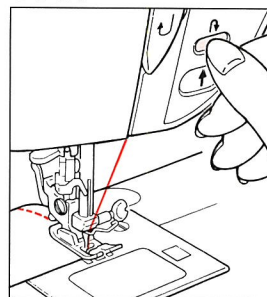


押している間だけ返しぬい  
をします。

②スタート・ストップ  
ボタンを押します。

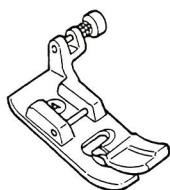


③返しぬいボタンを押  
します。



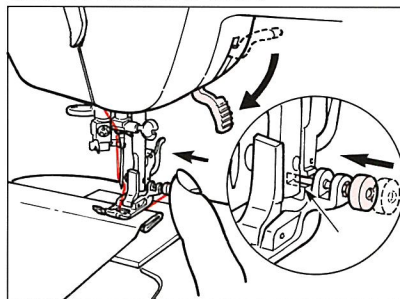
（針は上で止まります）

## ●厚地のぬい始め

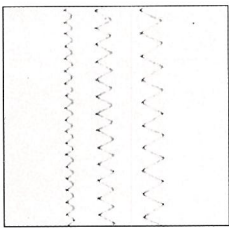


ぬいしろが重なった布端よりぬう場合  
は、押えについてのボタンを使う  
と、押えが布地と平行になり、スム  
ーズにぬうことができます。

押えについてのボタン（バネ）  
を押えホルダーのミゾに押し込み  
ながら押えをさげます。



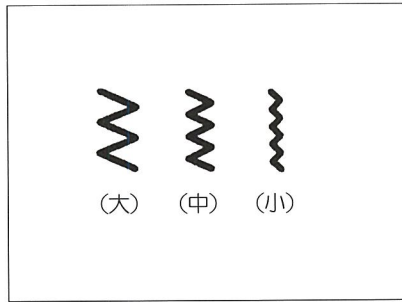
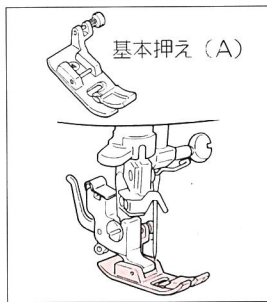
## ■ジグザグぬい



### ⚠ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

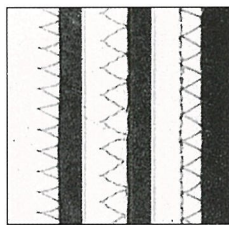
- 1 押えを確かめます。
- 2 ジグザグ模様を選びます。



### ●ジグザグ模様の自動

模様	(大)	(中)	(小)
振り幅	5	3	2
ぬい目の長さ	自動	2	1.4
	手動の範囲	0.5 ~ 4	0.5 ~ 4

## ■裁ち目かがり

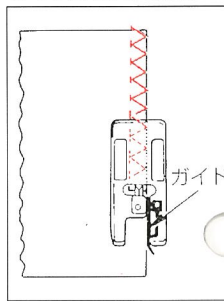
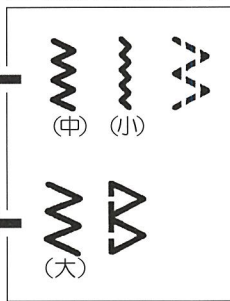


### ⚠ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

- 1 模様にあった押えに変えます。
- 2 模様を選びます。
- 3 裁ち目かがり押えを使う場合



(中)、(小)、(大)の模様は必ず基本押え (A) をお使いください。5種類のうちお好みの模様を選びます。布端をガイドにあててぬいます。

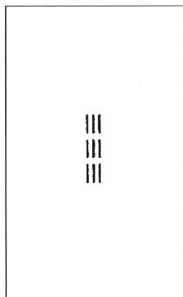
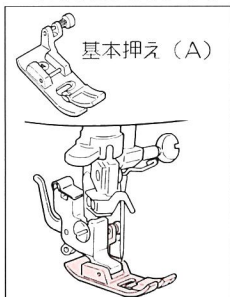
## ■伸縮強化ぬい (ストレッチステッチ)

伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

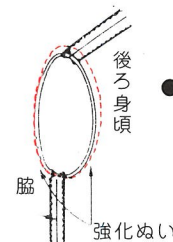
### ⚠ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1 押えを変えます。
- 2 模様を選びます。



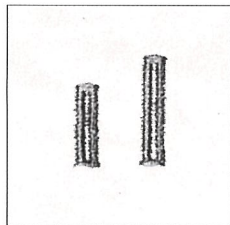
- 使用例
- 袖つけ



- よく使用するポケットつけ



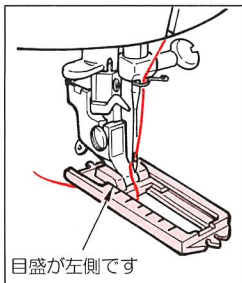
# ■ ボタン穴 かがり



ぬう布地やボタンの大きさに合わせて模様を選びます。

**▲ 注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

**1** 押え (E) をセットします。



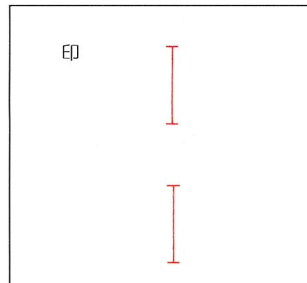
目盛が左側です

上糸を押えの下へくぐらせ横へ出します。

**2** 目的に合ったボタン穴かがりを選びます。

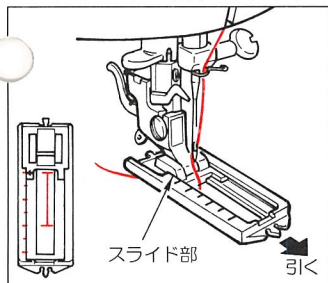
模様	主な用途
小	薄い布地 (シャツ、ブラウスなど) の小さいボタンに!
大	普通の布地で大きめのボタンに!

**3** ボタン径を測り布地に印をつけます。



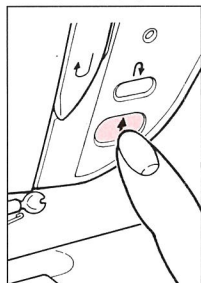
ボタン穴の位置にチャコで1印をつけます。  
(ボタンの直径+ボタンの厚みがかがり穴の長さです。)

**4** スライド部を引いて布地の印に合わせます。



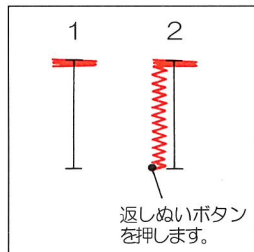
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

**5** スタートさせます。



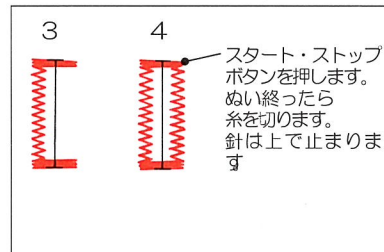
スタート・ストップボタンを押します。

印の終わりにきたら返しぬいボタンを押します。

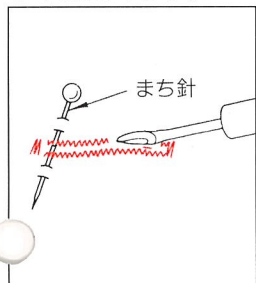


1. かん止めをして左側のぬいがはじまります。
2. 印の終わりに針がきたとき、返しぬいボタンを押します。
3. 手前のかん止めをぬってバックで右側のぬいがはじまります。
4. 最後の印に針がきたら、スタート・ストップボタンを押してミシンを止めます。

**7** 最後までぬい終わりましたらストップさせます。



**6** リッパーで穴をあけます。



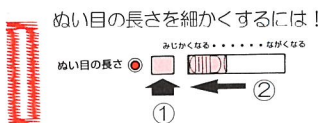
切りすぎないようにまち針を使うと失敗しません。

●同じサイズのボタン穴かがりをぬうときには、自動でぬうことができます。

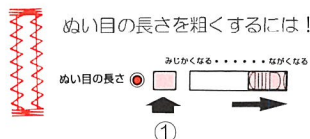
- 5.1 回目の穴かがりが終わると、模様選択ランプが点滅しますので、もう一度模様選択ボタンを押します。(ランプが点灯に変わります)
6. 次のボタン穴の印に合わせて、スタートさせます。(ミシンが1回目のボタン穴の大きさを記憶していますので自動的に折り返しぬいまでぬいます。)
7. 最後の印にきたら、スタート・ストップボタンを押します。

※ボタン穴の大きさを変えたいときは、他の模様へ移動してから再度模様を選択してください。(ボタン穴の大きさの記憶がクリアされます)

## ●ぬい目の長さの調整方法

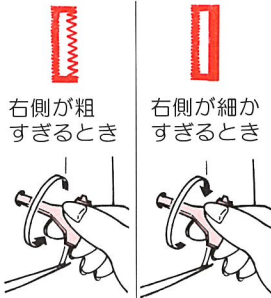


※デニムなどの厚地や太糸を使用してボタン穴かがりをぬうときは、ぬい目の長さを自動位置より粗めにします。



## ●左右のぬい目の長さ合わないときの調整方法

**▲ 注意** ぬい目を調整するときは電源スイッチを切ってください。

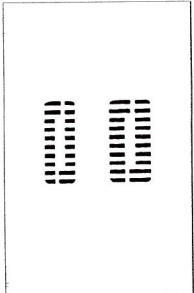
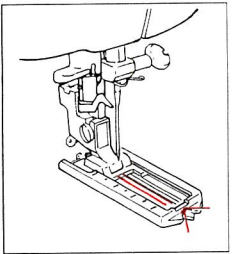


調整時のご注意  
ぬい目を見ながら少しづつ (45度ぐらい) 回してためしぬいをし、合わせてください。  
回しすぎるとネジが外れたりトラブルの原因となりますのでご注意ください。

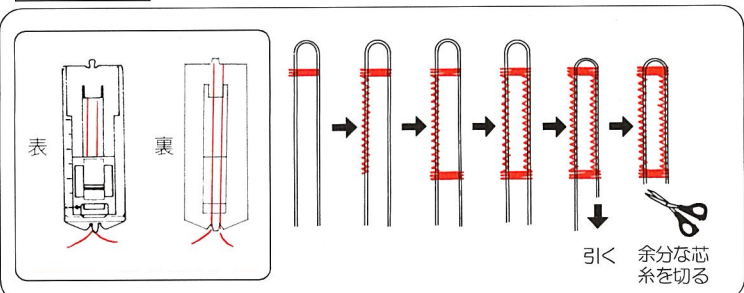
左側のぬい目を基準として右側のぬい目を調整します。

■ 芯入りボタン穴かがり

**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



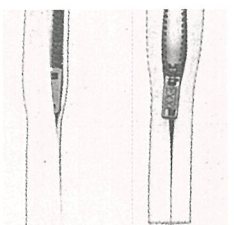
芯糸を入れてぬくとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。



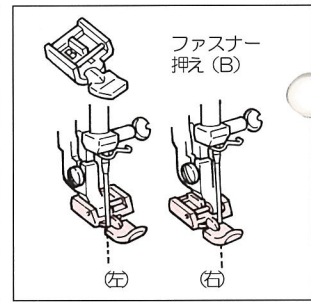
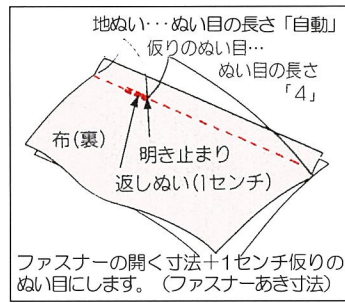
芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前を結びます。そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

■ ファスナーつけ

- 1 左基線の直線を選びます。
- 2 基本押え (A) を使ってぬいます。
- 3 ファスナー押え (B) をセットします。



ファスナーつけは一般的に脇明きファスナーつけと、つき合わせファスナーつけがあります。



**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

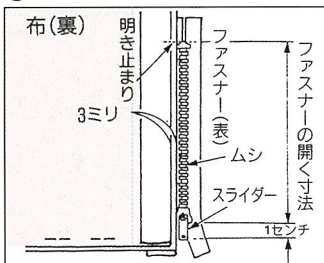
中基線はファスナー押えに針が当たりますので必ず左基線を選んでください。

布地を中表に合わせて、地ぬいと取り付けるファスナーの寸法を確かめて仮りぬいをします。

ファスナーの左側をぬうときは、押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

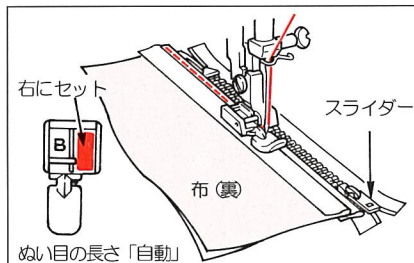
脇あきファスナーつけ

- ①ぬいしろをわります。



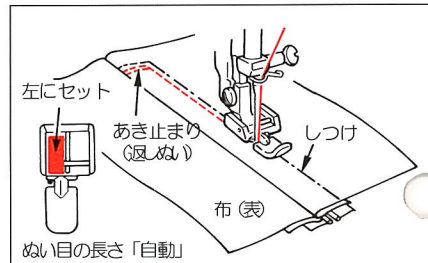
ぬいしろをきちんとわり、後ろ布のぬいしろを3ミリ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

- ②ファスナーの下方から上方にぬいつけます。



押えの端をムシのきわに当ててぬいます。ファスナーのスライダのところは手前5センチくらいでミシンを止め、スライダを押えの向こう側へさげて、端までぬいつけます。

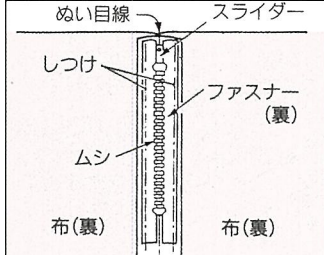
- ③上布をファスナーの上にかぶせしつけをしてからぬいつけます。



スライダを引き上げて、上布をファスナーの上にかぶせてしつけをします。あき止まりに返しぬいをして図のようにぬいます。スライダのところは仮のぬい目をほどいてスライダを下げ、残りをぬいます。

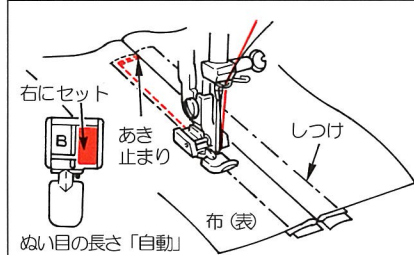
つき合わせファスナーつけ

- ①ファスナーをしつけます。

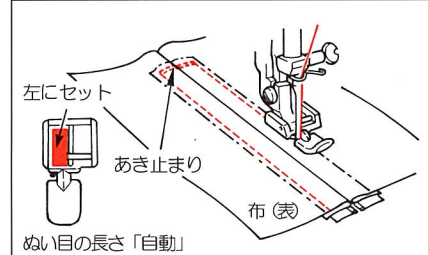


ぬいしろをわり、ぬい目線にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけをします。

- ②左側をあき止まりからぬいます。



- ③右側をぬいます。



ぬい終わりましたら仮りのぬい目をほどきます。

## ■まつりぬい (ブラインドステッチ)

**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1** 裁ち目かがりをして布地を折ります。
- 2** 押えをかえます。
- 3** 模様を選びます。
- 4** 押えのガイドに当ててぬいます。
- 5** 布地をかえします。

1.しつけをします。  
0.5~0.6センチ  
できあがり線  
しつけ

2.しつけより折ります。

3.

ブラインドステッチ押え (D)

模様を選びます。

押えのガイドに当ててぬいます。

布地をかえします。

裁ち目かがりとは 11 ページ参照

押えのガイドを折り山にピッタリ当ててぬいます。

ぬい終わりましたら布地を折り返します。

### ●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

折り山にぬい目がかからない場合

ネジを手前に回しますとガイドは右へずれます。

折り山にぬい目がかかりすぎた場合

ネジを向こう側に回しますとガイドは左へずれます。

## ■パッチワーク

**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

- 1** 地ぬいをします。
- 2** 押えを確かめます。
- 3** 模様を選びます。

1センチ  
地ぬい  
布(裏) 布(裏)  
ぬい代

基本押え (A)

模様を選びます。

重ねはぎ  
布(表) 布(表)

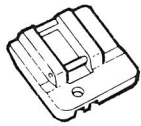
割りはぎ  
布(表)

2 枚の布地に地ぬいをします。

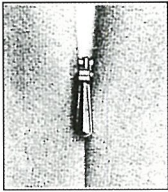
両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

## ■別売品のご紹介

### コンシール押え



使う模様



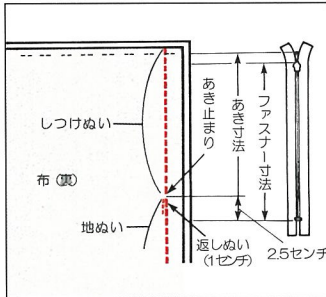
ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態、あきの始末ができます。

#### ⚠注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

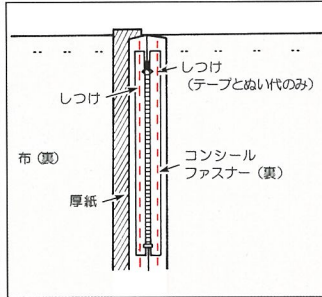
ファスナーあき寸法を確認

1 基本押え (A) でぬいます。



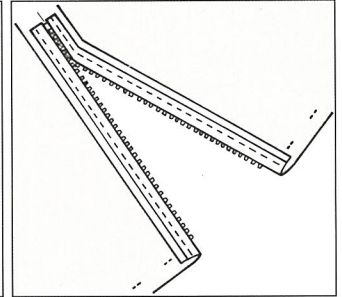
布地を中表に合わせ、布端よりあき止まりまでしつけぬいをします。あき止まりからぬい目を (2.0) に変えて、1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんとわります。

2



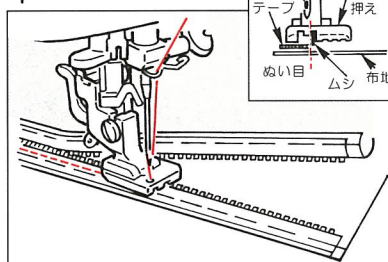
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めます。しつけが終わったら厚紙をとります。

3



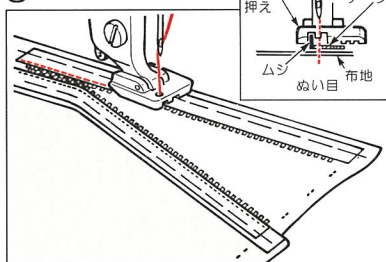
1図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどき、ファスナーを開きます。

4



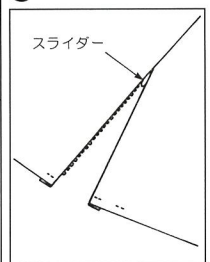
一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせます。指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。

5



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせます。(ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、ぬいしろにぬいつけられずに残ります。)

6

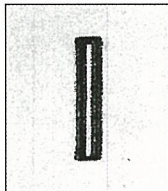


スライダーを中より出し、上に引きあげます。

### 手動BH押え



使う模様

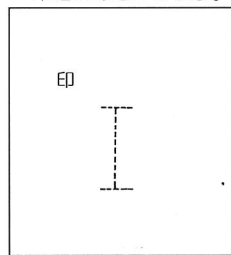


厚地の布を使った短冊あきや台衿の部分に穴かかりをする場合に用います。

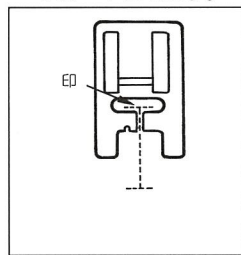
#### ⚠注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 ボタン径を測り布地に印をつけます。

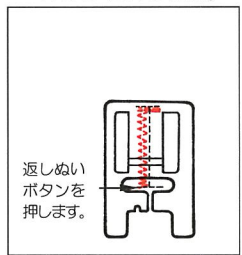


2 布地の印に合わせてスタートさせます。

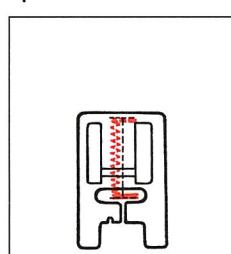


かん止めをして、左側のぬいがはじまります。

3 印の最後で返しぬいボタンを押します。

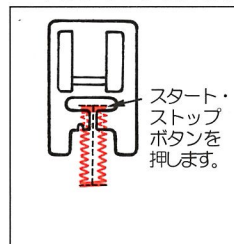


4



かん止めをして、バックで右側のぬいはじまります。

5 印の最後でスタート・ストップボタンを押します。



※失敗したときはミシンを止め、模様選択キーをもう一度押しますと、最初からぬうことができます。

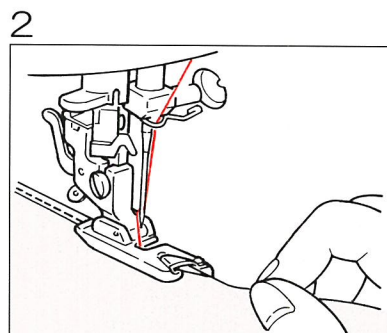
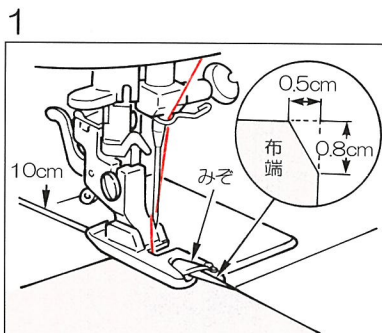


### 三つ巻き押え



**注意**

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

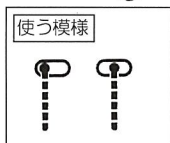
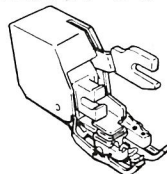


布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみその中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます

上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬっていきます。

布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

### 布づれ防止に・・・ 上送りアタッチメント

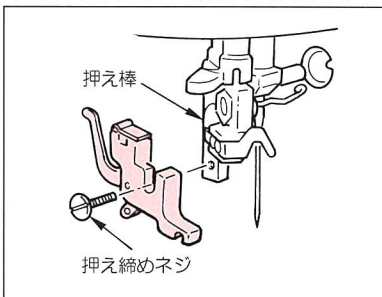


**注意**

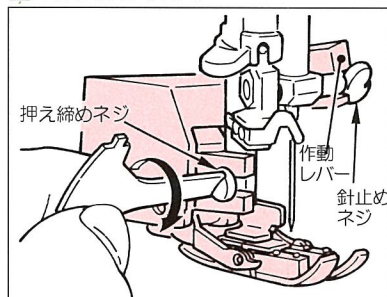
押えホルダーや上送りアタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

一般にミシンで送りにくい素材（ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使います。  
十分な送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

1 押えホルダーをはずします。



2 上送りアタッチメントを取り付けます。

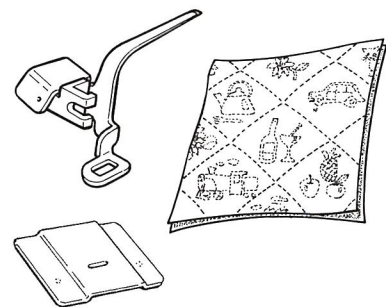


押え棒をあげて、押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりしめます。

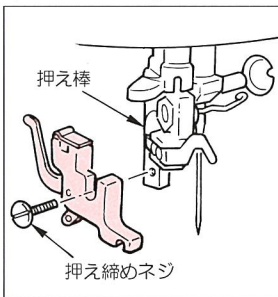
※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

### キルトアタッチメント

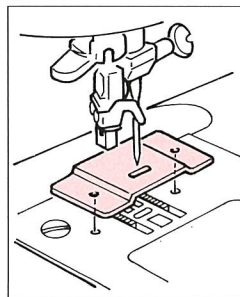


キルト芯を入れてオリジナルキルトが作れます。フリー刺しゅうにも最適です。

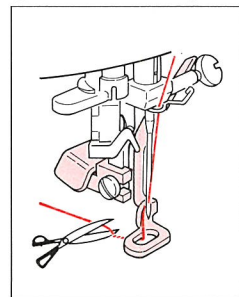
押えホルダーを  
1 はずします。



針板カバーを  
2 取り付けます。



キルト押えを  
3 取り付けます。



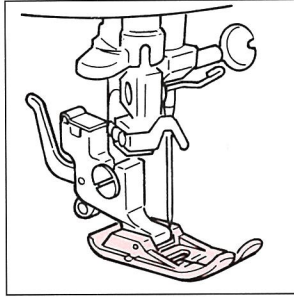
**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

テフロン押え

**注意** 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



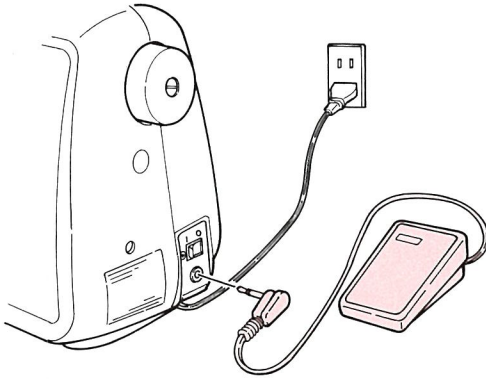
テフロンはすべりが良いため送りにくい素材（ジャージー、ビニールクロス、皮など）に適します。



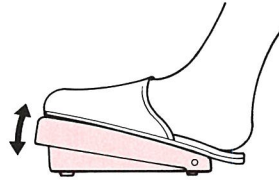
コントローラー

**注意** ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

コントローラーを使いますと、スタート、ストップ、スピードコントロールが足の操作で行えます。



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。



コントローラーを深く踏むと速くなり、浅く踏むと遅くなります。足をはなしますと、ミシンは止まります。  
 ※ぬい速度調節つまみの位置により、最高速度が変わります。  
 つまみを一番右側にすると、ゆっくりから最高速度までコントロールできます。

- 針は布に入ったまま止まります。
- スタート・ストップボタンはストップのみ有効です。
- 返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

仕様表

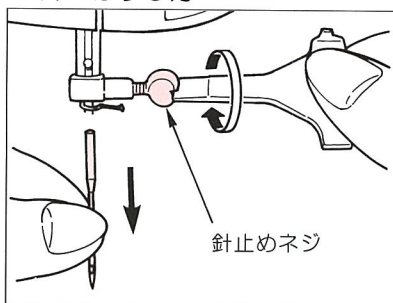
■仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅410×高さ300×奥行180 (mm)
ケースセット寸法	幅440×高さ305×奥行215 (mm)
重量	7.3kg (ケースセット時 8.4kg)
定格電圧/消費電力	100V / 76W 50 / 60Hz
ランプ消費電力	12V / 15W

## ■針の交換

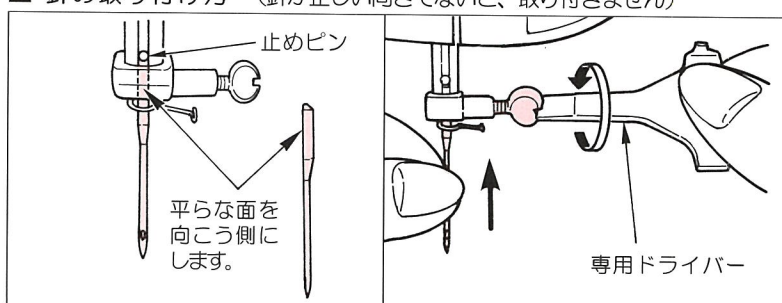
**注意** 針の交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

### 1 針のはずし方



- ①針棒を最上部にあげます。
- ②針止めネジをゆるめます。

### 2 針の取り付け方 (針が正しい向きでないと、取り付けません)



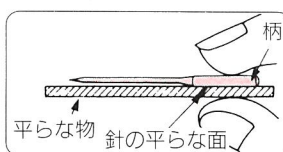
- 針の平らな面を向こうにして止めピンまで差し込みます。
- 針止めのネジをかたくしめます。

#### ●針の選び方

針をお買い求めの際は、  
●専用ミシン針のHAX1  
またはHAX1SP (ニット針)  
を指定します。

太さの番号表示  
数字が大きくなると  
針が太くなります。

#### ●針の調べ方



すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。  
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにします。

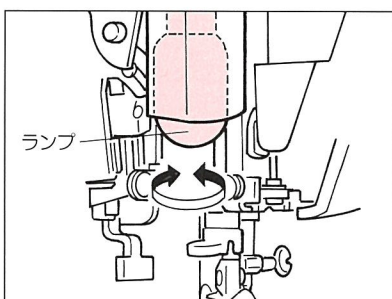
## ■ランプの交換

(面部カバーのとりはずし方)

**注意** ●ランプの交換のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。  
●ランプは冷えてから交換してください。



- ミシン後部
- 止めネジ
- ミシン後部の止めネジをゆるめ、こまますく面部カバーをぬきます。



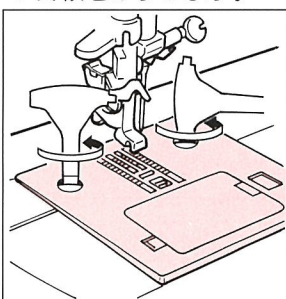
- ランプをまわして、とりはずし、新しいランプをとりつけます。

- ランプの消費電力は15Wです。
- ランプのお買い求めは、このミシンをお買い上げいただきました販売店でお願いします。

## ■お手入れ (掃除)

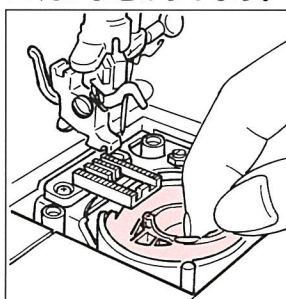
**注意** ミシンのお手入れをするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

### 1 針板をはずします。

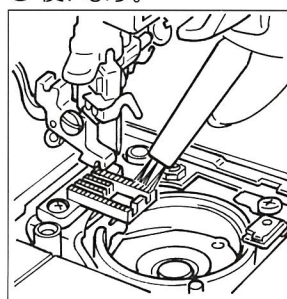


針や押えをはずしてから針板をはずします。

### 2 内かまをはずします。

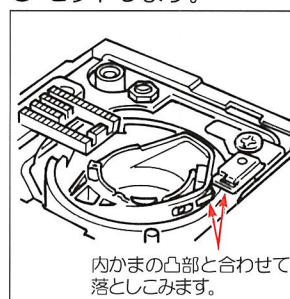


### 3 ブラシなどを使います。



送り歯とかまの中や周辺をきれいにします。  
たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいになります。

### 3 内かまをセットします。



内かまの凸部と合わせて落としてこみます。

## ■故障かな……というときは

下記のことをお調べのうえ、それでも具合の悪い場合は、お買い求め販売店にご相談ください。

症状	原因（理由）	処置方法	参 考 ペ ー ジ
布を送らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミシンが空転している</li> <li>●ぬい目の長さが手動の左端になっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸巻き軸を左へ戻します</li> <li>●自動か手動の左端より右側にします</li> </ul>	5 8
針が折れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針が曲っているか取り付け方を誤ったとき</li> <li>●押えと選んだ模様が合わないとき</li> <li>●針、糸、布地の関係が悪いとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針を交換し、正しく取り付けます</li> <li>●模様にあった押えを使います</li> <li>●布地に合った針と糸を使います</li> </ul>	18 7 7
上糸が切れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸のかけ方が間違っているとき</li> <li>●糸が必要以外の所へからんでいるとき</li> <li>●上糸の調子が強すぎるとき</li> <li>●針が曲っているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しくかけ直します</li> <li>●糸立棒・糸案内などからんでいるか調べます</li> <li>●糸調子を合わせます</li> <li>●新しい針にとりかえます</li> </ul>	6 - 8 18
下糸が切れる ぬい目がとぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針のつけ方が間違っているとき</li> <li>●針が曲っているとき</li> <li>●糸のかけ方が間違っているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しくとりつけます</li> <li>●新しい針にとりかえます</li> <li>●正しくかけ直します</li> </ul>	18 18 6
ぬいじわが出る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸調子が強すぎるとき</li> <li>●布地と針と糸が合っていないとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸調子を合わせます</li> <li>●正しく合わせます</li> </ul>	8 7
布の裏側にタオル状に 糸がからんでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸のかけ方が間違っているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●正しくかけ直します</li> </ul>	6
回転が重く、音が高い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かまに糸くすがたまっているとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かまを掃除します</li> </ul>	18
スタート・ストップボタ ンを押してもミシンが回 らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸巻軸が下糸巻き状態になっている</li> <li>●コントローラー（別売）がセットされている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●糸巻軸を左側に戻します</li> <li>●コントローラーでスタートさせるか、取り外します</li> </ul>	5 17
糸通しができない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●針が上にあがっていないとき</li> <li>●針をとりつけるとき上までつき当ててないとき</li> <li>●糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●はずみ車を回して、針を最上点にあげます</li> <li>●針を正しくとりつけます</li> <li>●はずみ車を手でわずかに向こう側（ぬう時と反対）に回します</li> </ul>	5 18 -

## ■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
  - 保証書は、販売店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
  - 保証期間中は、お買い上げの日から1年間です。ただし、マイコン基板は2年間です。
  - 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。（保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。）
  - 保証期間経過後の修理につきましては、販売店にご相談ください。
- 当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

# JUKI

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、下記の当社営業所へお問い合わせください。

北海道営業所……〒060-0055 札幌市中央区南五条東3-14-5 ☎011 (512) 6896  
 東京営業所……〒182-0022 東京都調布市国領町4-51-7ビル2F ☎0424 (80) 2801  
 大阪営業所……〒530-0001 大阪市北区梅田1-3 大阪駅前第一ビル5F ☎06 (6348) 1351  
 広島営業所……〒733-0032 西区東観音町2-15 ロックマンマンション303 ☎082 (234) 7900  
 九州営業所……〒811-2112 福岡県粕屋郡須恵町大字植木590-5 ☎092 (936) 9060  
 JUKI中部販売（株）……〒452-0000 愛知県西春日井郡春日町大字落合字宮重町521 ☎052 (400) 1234

JUKI 株式会社

〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1  
 ☎03-3480-7112